

新大人研レポートⅩⅢ いま高齢社会は“新しい大人社会”へと大きく変化 その⑥

「余生を静かに過ごす高齢者から “ライフスタイルを創る新しい大人” へ」

「ライフスタイルを創りたい」新しい大人世代(40-60代) 住環境は、風呂も寝室もリビングもゆったりくつろぐ。 ユニバーサルデザインだけでなく「太陽光」等も重視

- ・新しい大人世代(40-60代) 全体の94.4%が自分らしいライフスタイルを創造したいと回答。
- ・住環境がライフスタイルのために重要と考えるのは、新大人世代女性の7割。
- ・変えたい住環境のトップは、「エコ」で「ユニバーサル」、上位に「夫婦で会話できるリビング」「ゆったりくつろげる浴室」「ゆっくり休める寝室」。

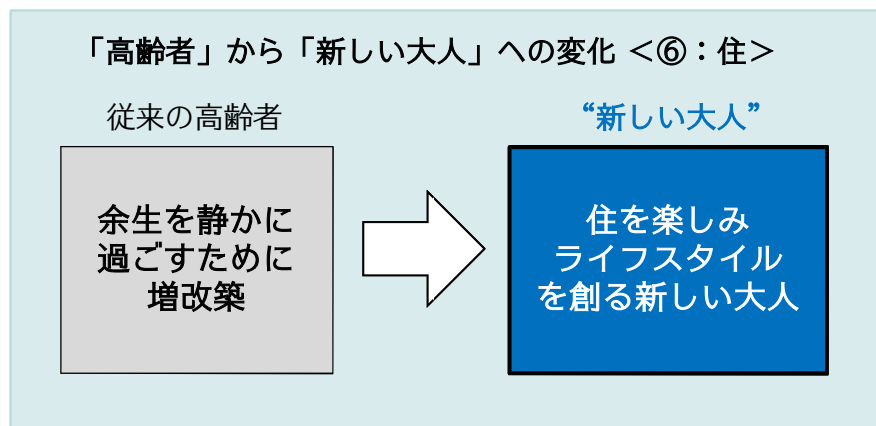
いま40-60代生活者が「日本の高齢社会を大きく転換」しようとしています。会社は退職しても社会はリタイアしない人たちが増えています。「博報堂 新しい大人文化研究所」は、これらの世代を総称して“新しい大人世代”と名付け、調査研究を行っています。2012年度は『絶滅!?する中高年ー“新しい大人世代の登場”』と題して連続レポートを発表してきました。このたび全国40-60代男女に対する調査を実施し、分析を行った結果、**高齢社会が“新しい大人社会”へと転換する「兆し」**が見えてきました。新しい大人世代、とりわけ、リタイアした60代の団塊世代が、今ようやく動き出し、日本の高齢社会そのものが、生活者の力で大きく転換しようとしています。調査結果から読み取れる変化の兆しを、生活のさまざまな角度からご報告します。

その⑥は、「住」です。

人生で最も大きな買い物といえる「住宅」。これまでの高齢者は、老後生活に向けた住居の改善を目的に、老朽化した箇所の修繕や手すりを付けるといった単純な改修を行うのが一般的なイメージでした。

このたびの調査結果では、生活の多様化に伴い、エルダー世代の意識に「静かな余生」という概念ではなく、「ライフスタイルを創造」したいという欲求が起きていることが見えてきました。この変化は、団塊の世代がリタイアしたことで起こっていると思われます。また、創造の実現には「住環境」を整えることが重要な要素のひとつと捉えていることもわかりました。

“エコを意識した太陽光発電の設置” “家族と会話を楽しむためのリビング” など、如何に生活を便利で快適で豊かなものにするか、社会貢献も含め、意志と目的を明確に持ち、自分なりの「ライフスタイルを創る新しい大人」へと変化しています。これらは、まさに高齢社会そのものが変わる兆です。40-60代が概ね、その傾向にあるため、これが一過性のものでなく、今後、少なくとも20年は続き、高齢社会全体を大きく変えて行くと見られます。



<調査結果>

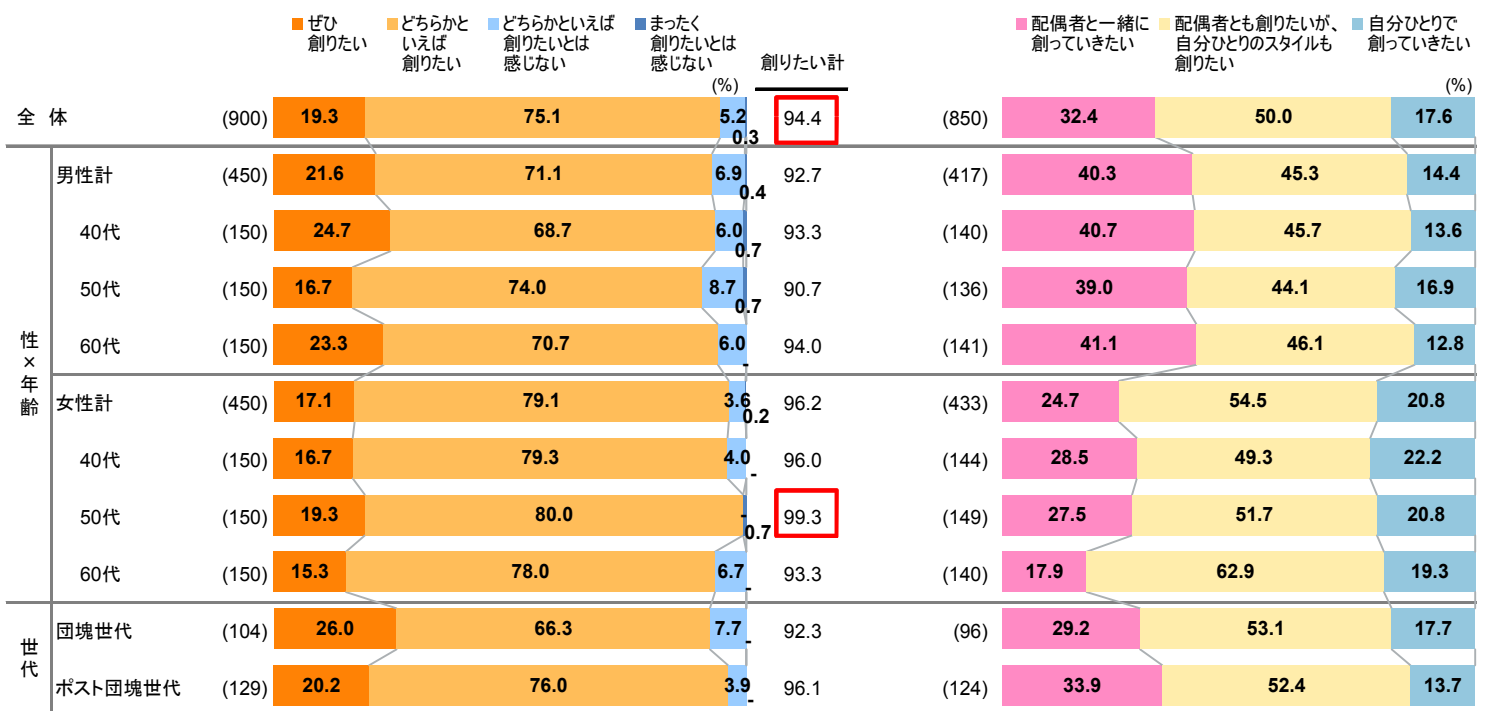
■自分なりのライフスタイルを創りたいは、女性50代がトップで99.3%。
 新しい大人世代(40-60代) 全体でも94.4%。
 全世代共通して創造意欲は9割以上と、非常に高い結果に。

■ライフスタイルの創造スタイルは「配偶者とも創りたいが、自分ひとりのスタイルも創りたい」が世代差なく半数をしめる。男性に比べ女性が高い傾向。
 また、男性は「配偶者と一緒にライフスタイルを創りたい」が高いのに対し、女性は「自分ひとりで創っていききたい」がやや高い傾向。

【図1】 【自分なりのライフスタイル創造意欲】

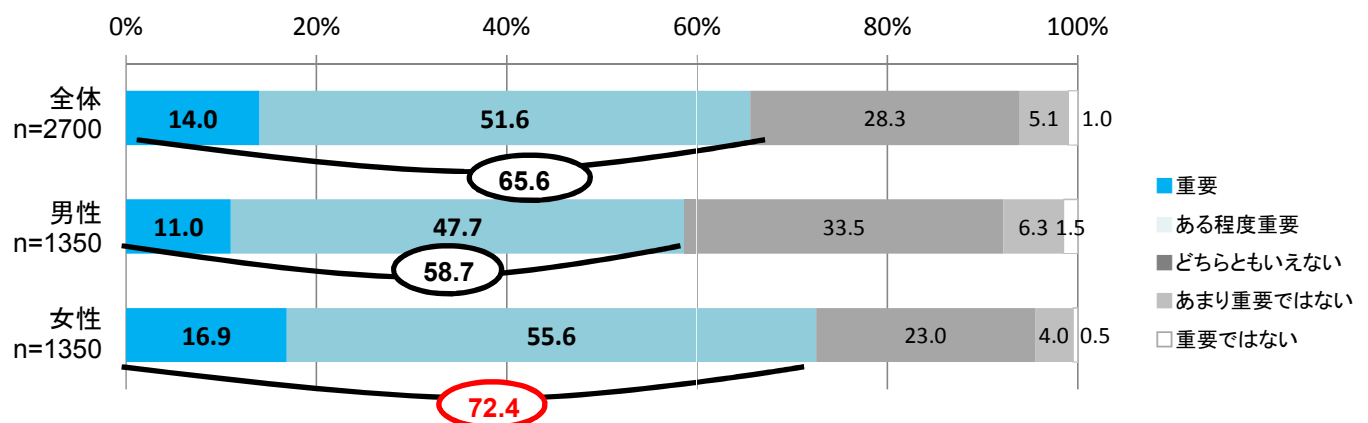
【図2】 【ライフスタイル創造スタイル】

*創造意向者ベース



■ライフスタイル創造のために住環境が重要だと捉えているのは、新しい大人全世代で3人に2人。ここでも女性の意識が高く、女性全体の約7割が回答。

【図3】 住環境の重要度



■変えたい住環境のトップ5は、①太陽光など自家発電をとりいれエコに貢献
 ②バスルームを広くゆったりくつろげるように ③バリアフリー／ユニバーサルデザインの家 ④ゆっくり休めるゆったりした寝室 ⑤夫婦でくつろいだり会話を楽しめるようなリビング。（但し60代では、1位にユニバーサルデザイン、2位太陽光）

■尚、60代男女でポイント差が高いものは以下の3つ。

- ①「夫婦でくつろいだり会話を楽しめるリビング」は、9.1ポイント差で男性が上位に対し、「みんなで集まれる大きなリビングにしたい」意向は女性の方が高い。
- ②「趣味の部屋をつくりたい」は、8.1ポイント差で男性が上位。
- ③「夫婦で別の寝室にしたい」女性に対し、「一緒に寝室にしたい」男性。「別寝室にしたい」は、女性が上位で3.6ポイント差に対し、「一緒に寝室にしたい」は、男性が上位で2.0ポイント差となりました。

変えたい住環境について尋ねたところ、新大人世代の理想のライフスタイルが見えてきました。基本的には全年代で「エコ」で「ユニバーサル」な家であること。また、「家族との対話」「ゆったりくつろげる浴室」「ゆっくり休める寝室」など、家族・夫婦・自分一人で充実した時間を過ごせる環境も重要視しています。

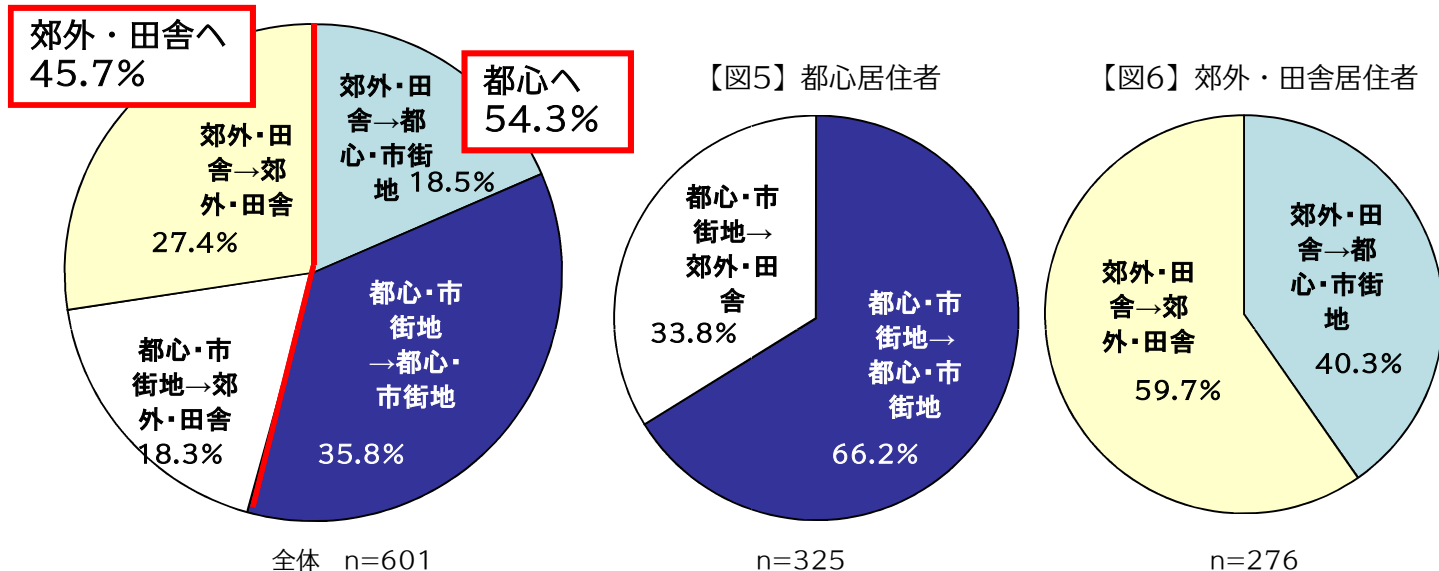
【表1】 Q.リフォーム・住み替え後に変えた・変えたい住宅環境（検討意向者ベース）

	サンプル数	キッチンを使えるようにしたい キッチンをも使え	一緒に使えるようにしたい キッチンを夫婦で	夫婦で別の寝室にしたい	夫婦で一緒に寝室にしたい	たりとした寝室にしたい ゆっくり休めるゆっ	げようようにしたい ってゆったりくつろ	バスルームを広くと	スのある家にしたい きなリビングやテラ	みんなで集まれる大	なりリビングにしたい 会話を楽しめるよう	夫婦でくつろいだり	なテラスを持ちたい 会話を楽しめるよう	夫婦でくつろいだり	のための部屋を作りたい 夫婦それぞれに自分	趣味の部屋（オーディ	オルームなど）を作りたい バリアフリー／ユニバー	サルデザインの家にしたい 太陽光など自家発電	献できる家にしたい をとりいれエコに貢	ITで家電設備運転	や外出先から操作が	できる家にしたい	その他
全体	2700	4.9	8.3	7.4	6.4	19.6	22.8	14.7	18.3	9.3	15.9	15.1	22.4	24.9	6.6	2.9							
40代	900	4.8	10.2	6.7	9.1	24.7	26.6	17.8	19.9	11.9	16.6	17.6	18.9	25.2	8.4	2.1							
50代	900	5.2	8.0	8.9	5.9	17.1	20.9	12.4	18.8	8.8	16.0	14.1	22.3	27.4	6.2	2.9							
60代	900	4.6	6.8	6.8	4.3	16.9	21.0	14.0	16.1	7.3	15.0	13.6	25.9	22.0	5.2	3.7							
男性	1350	4.6	7.9	4.0	7.3	18.8	24.5	11.6	19.0	9.9	13.7	19.3	20.4	24.1	7.9	2.5							
男性40代	450	4.7	8.9	2.7	9.8	24.4	27.6	12.2	16.4	11.1	12.0	23.1	15.1	24.2	9.8	1.3							
男性50代	450	3.6	7.1	3.8	6.7	16.2	21.6	9.6	20.0	10.0	13.3	17.6	20.2	24.9	7.3	1.6							
男性60代	450	5.6	7.8	5.6	5.3	15.8	24.4	12.9	20.7	8.4	15.8	17.3	26.0	23.1	6.4	4.7							
女性	1350	5.1	8.7	10.9	5.6	20.3	21.1	17.9	17.5	8.8	18.0	10.8	24.3	25.7	5.4	3.3							
女性40代	450	4.9	11.6	10.7	8.4	24.9	25.6	23.3	23.3	12.7	21.1	12.0	22.7	26.2	7.1	2.9							
女性50代	450	6.9	8.9	14.0	5.1	18.0	20.2	15.3	17.6	7.6	18.7	10.7	24.4	30.0	5.1	4.2							
女性60代	450	3.6	5.8	8.0	3.3	18.0	17.6	15.1	11.6	6.2	14.2	9.8	25.8	20.9	4.0	2.7							

■ 住み替えの際の移動先は、「都心・市街地へ」と「郊外・田舎へ」がほぼ半々。

住み替えの際の移動先を尋ねたところ、「都心・市街地へ」が新しい大人世代全体の54.3%。「郊外・田舎」を希望するのが45.7%とほぼ二分する結果となりました。自分の価値感にあった場所を選択しなおす傾向が明らかになりました。

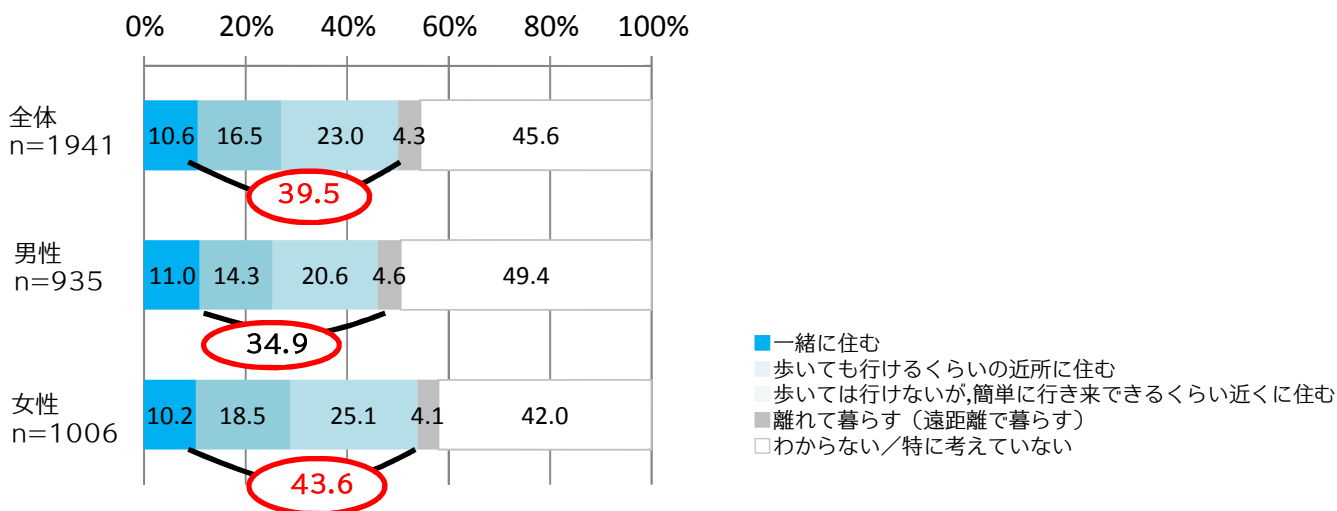
【図4】 住替えた／住替えたい居住地の移動パターン 移動元⇒移動先（住み替え実施・検討意向者ベース）



■ 今後の家族の居住関係は、親が望む子供との「近居」に約4割が「そうしたい」と回答、比較的多い結果に。

親が望む子供との「近居」は、女性43.6%となり、男性34.9%よりやや多い結果となりました。全体でも39.5%が子供との「近居」が理想のスタイルと回答しており、今後「近居」スタイルが主流となる可能性もでてくるかもしれません。

【図7】 今後の子供との居住関係



<調査概要>

【図1、図2、図3】

調査主体：博報堂 エルダナーナレッジ開発 新しい大人文化研究所

調査対象：40～60代男女

調査主要：インターネット調査（パネル：マクロミル）

調査エリア：首都圏（1都3県）＋中小都市（首都圏および政令指定都市、岩手県・宮城県・福島県を除く） ※首都圏以外の政令指定都市、札幌市、仙台市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市

※熊本市（2012/4）、岡山市（2009/4）も政令指定都市だが、今回は非除外

調査：サンプル数：900名、実査：2013年3月23日～24日

■表1、図4、図5、図6、図7

調査主体：博報堂 エルダナーナレッジ開発 新しい大人文化研究所

調査対象：40～60代男女

調査主要：インターネット調査

調査エリア：首都圏（1都3県）＋中小都市（首都圏および政令指定都市、岩手県・宮城県・福島県を除く） ※首都圏以外の政令指定都市、札幌市、仙台市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市

調査：サンプル数：2700名、実査：2012年12月

※上記の条件のもと、調査を実施しています。

博報堂 エルダナーナレッジ開発 新しい大人文化研究所 過去のレポート一覧

※過去のレポートは、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.h-hope.net/> (新しい大人文化研究所WEBサイト)

<http://www.hakuhodo.co.jp/> (博報堂WEBサイト → 「ニュースリリース」 → 「調査レポート」)

- ・HOPEレポートⅠ 元気で意欲的な「ニューエルダー」の登場 (2001.5.21)
 - ・HOPEレポートⅡ エルダー世代から見て公共サービスや高齢者への工夫ほどの程度進んでいるのか(広告分野含め)(2001.7.10)
 - ・HOPEレポートⅢ エルダー世代が現在楽しみにしている付き合い・コミュニケーション (2001.8.21)
 - ・HOPEレポートⅣ 65歳以上の「親」世代が「子」「孫」世代とどうコミュニケーションしているのか(3世代コミュニケーション)(2001.9.7)
 - ・HOPEレポートⅤ エルダー層のお金に対する意識調査 (2001.11.9)
 - ・HOPEレポートⅥ いま、ラジオがエルダーを動かす (2001.11.29)
 - ・HOPEレポートⅦ エルダー世代の旅は「夫婦二人きりで、贅沢に！」(2002.3.26)
 - ・HOPEレポートⅧ 50代男女に聞いた「言われてうれしい言葉」～[50代調査速報] (2002.7.12)
 - ・HOPEレポートⅨ 65歳以上のパソコン使用率：2年間で2.7倍、携帯電話使用率は2倍 (2002.10.21)
 - ・HOPEレポートⅩ エルダーの3分の2はお金に苦労しない～「50代・60代のお金に関する意識」(2003.3.11)
 - ・HOPEレポート増刊 「新しい大人文化」創造のヒント(公式)を発表します。開けひま。(2003.10.8)
 - ・HOPEレポートⅩⅠ 夫だけが信じる「ウチは大丈夫」～「50代夫婦のパートナー評価」(2003.12.12)
 - ・HOPEレポートⅩⅡ 3食きっちり、エルダーは食べることが楽しみな「食生活優等生」「エルダーの食生活調査」(2004.2.19)
 - ・HOPEレポートⅩⅢ 「いまは健康」だが、「今後の健康」・「病気のお金」に強い不安。(2004.4.22)
 - ・HOPEレポートⅩⅣ 3世代とも「他世代と、もっとコミュニケーション」したい。(2004.7.14)
 - ・HOPEレポートⅩⅤ 団塊リサーチ(1)「団塊夫婦の定年意識」に関する調査(2004.9.8)
 - ・HOPEレポートⅩⅥ 団塊リサーチ(2)「団塊世代のエンタテインメント消費調査」(2005.4.15)
 - ・HOPEレポートⅩⅦ 団塊リサーチ(3)「団塊世代のファッション実態調査」(2005.7.20)
 - ・HOPEレポートⅩⅧ HOPEサーベイ2005 最新データ「エルダーの情報縁とタッチポイント」(2005.9.8)
 - ・HOPEレポートⅩⅨ 「団塊世代～定年(引退)後のライフスタイル調査」(2005.10.15)
 - ・HOPEレポートⅩⅩ 「団塊男性、定年後に目指す『男のロマン』調査」(2006.5.10)
 - ・HOPEレポートⅩⅩⅠ HOPEサーベイ2006 「団塊世代 人生60年の棚卸し」(2006.11.24)
 - ・HOPEレポートⅩⅩⅡ 「団塊世代 60歳以降の人生設計」(2007.2.20)
 - ・HOPEレポートⅩⅩⅢ 2007年団塊リタイヤ開始(1)「団塊世代 退職金の使い方」(2007.4.26)
 - ・HOPEレポートⅩⅩⅣ 2007年団塊リタイヤ開始(2)「団塊世代 今後の生活と暮らし方」(2007.6.26)
 - ・HOPEレポートⅩⅩⅤ 2007年団塊リタイヤ開始(3)「夫婦の関係」(2007.7.24)
 - ・HOPEレポートⅩⅩⅥ “絶滅!?する中高年” ジーンズフィフティ・インフルエンサーの登場 (2009.2.5)
 - ・HOPEレポートⅩⅩⅦ 団塊夫婦調査(1)「夫婦はやはり“すれ違い”!?」(2009.4.9)
 - ・HOPEレポートⅩⅩⅧ 団塊夫婦調査(2)「夫婦関係改善の手立て」(2009.4.20)
-
- ・新大人研レポートⅠ ”新しい大人世代 “の人生のとらえ方(2012.1.19)
 - ・新大人研レポートⅡ ”新しい大人世代 “の言われて嬉しい言葉(2012.2.1)
 - ・新大人研レポートⅢ ”新しい大人世代 “のコミュニケーション(2012.4.16)
 - ・新大人研レポートⅣ ”新しい大人世代 “の健康意識(2012.5.31)
 - ・新大人研レポートⅤ ”新しい大人世代 “のお金に関する意識(2012.8.27)
 - ・新大人研レポートⅥ ”新しい大人世代 “の社会意識(2012.9.3)
 - ・新大人研レポートⅦ ”新しい大人世代 “の夫婦関係(2013.2.26)
 - ・新大人研レポートⅧ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その①おカネ(2013.07.31)
 - ・新大人研レポートⅨ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その②食(2013.9.5)
 - ・新大人研レポートⅩ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その③メディア(2013.11.6)
 - ・新大人研レポートⅩⅠ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その④社会性(2013.11.28)
 - ・新大人研レポートⅩⅡ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その⑤クルマ(2013.12.25)

「博報堂 エルダナーナレッジ開発 新しい大人文化研究所」(新大人研)について

当研究所は、「博報堂エルダナービジネス推進室」(2000年設立)を前身とし、2011年2月に設立された、40～60代生活者の意識・行動を研究する専門組織です。従来の中高年齢層の間で一般的であった意識やライフスタイルとは異なる、新しい40～60代が誕生しています。当研究所では、年を重ねるごとに前向きな意識を持つ、この新しい中高年齢層生活者を「新しい大人」と名づけ、少子高齢化社会にプラスのインパクトを与える重要な存在として調査・研究および企業向けコンサルティング業務を行っています。今年度は『新大人研レポート ～いま高齢社会は“新しい大人社会”へと大きく変化～』を連続シリーズで発表していく予定です。

所長：阪本節郎(さかもと・せつお)



1975年早稲田大学商学部卒業。(株)博報堂入社。食品・トイレタリー・自動車・OA・金融等のプロモーション企画実務を経て、プロモーション数量管理モデル・対流通プログラム等の研究開発に従事。その後、商品開発および統合的な広告プロモーション展開実務に携わりつつ、企業のソーシャルマーケティングの開発を理論と実践の両面から推進。地域社会・NPO・環境・高齢者・教育サイトなどのテーマに取組む。2000年エルダナービジネス推進室開設を推進し、2011年新しい大人文化研究所を設立、現在に至る。

著書 「巨大市場『エルダー』の誕生」(プレジデント社2003年7月、共著)、「団塊サードウェーブ」(弘文堂2006年1月)。「団塊の楽園」(弘文堂2007年2月、共著)。